

タウンニュース多摩区版
2019年3月1日(金)号(No.763)

「つながり愛」情報共有

中野島 催しに60人

多世代で支え合うまちづくりを考える「中野島つながり愛フォーラム」が2月23日、中野島会館で開催された。関係団体や地域住民ら約60人が参加。中野島地区で行われている活動を共有しながら、意見を交わした。

あいさつ運動や多世代交流の場づくりなど、地域愛を育む取り組みとして3年前に始動した「中野島つながり愛プロジェクト」。昨年10月に国の助成による専門機関の手を離れ、住民主導の活動として継続している。

フォーラムでは地区社協や町会、こども文化センターなどが各取り組みについて発表。「中野島の情報を知るにはどうすれば良いか」というテーマでアイデア出しも行われた。写真。同プロジェクト協会の田村弘志会長は「アイデアを具体的に推し進め、実現していく時期」と強調。交流の場を運営する「まち・人・くらし



プロモーター」の打木勢津子さんは「SNSなどを通じて、若いママさんたちにも浸透してきている」と手応えを語った。

登戸地区

24団体、交流の「輪」広げ

初の催しに70人

登戸地区で地域貢献活動に取り組む団体が集う「のぼりレミーティング2019」が3月4日、専修大学サテライトキャンパスで開催された。福祉施設や地元町会など24団体、約70人が参加。「地域へ社会貢献の輪を広げよう」をテーマに、各活動への理解を深めた。

当日は、区内で福祉活動を行う田園調布大学の和秀俊准教授が講演したほか、4団体がそれぞれの活動について発表。登戸地区民生委員児童委員協議会や子育てサロン「ひよっこ」に取り組み森田忠正さんは「活動が委員同士のやりがいになる。自分たちが楽しくないと

がり愛フォーラム、生田地区の「生田」近所パワニアップ会議」に続き、登戸では初開催となった。

「続かない」と思いを話した。障害者の就労支援に取り組む「はつびわく」の田中敦子さんは「障害がある人もない人も、生き生きと過ごせる地域になれば」と語った。

参加団体のパネル展示



参加団体のパネル展示(上)、4団体の活動紹介を聞く参加者

を基に投票する「なんでもアワード」も実施。一緒に活動してみたい「つながりたいde賞」には、登戸南武町会のランドカフェ、「アイデア賞」には登戸新川町会のカフェ花みずきと川崎新田ボクシングジムが選ばれた。グラッドカフェを運営する井上重子さんは「今後、も気張らず楽しくやっていきたい」と話していた。

タウンニュース多摩区版
2019年3月8日(金)号(No.764)